

全国青年剣道大会実施要項

1. 期 日 11月9日(土)～10日(日) 午前9時開場
2. 会 場 東京武道館(東京都足立区綾瀬3-20-1) 電話 03-5697-2111
※東京メトロ千代田線 綾瀬駅東口下車 徒歩5分
3. 主 催 一般財団法人全日本剣道連盟、日本青年団協議会
4. チーム編成
 - (1) 男子団体…監督1名、選手5名(先鋒、次鋒、中堅、副将、大将)、計6名とする。
 - (2) 女子団体…監督1名、選手3名(先鋒、中堅、大将)、計4名とする。
 - (3) 団体戦に出場した選手男女は、個人戦にも出場する。
 - (4) 男子団体の大将は、30代の者とする。
 - (5) 男女団体の監督は選手を兼ねることができる。

5. 出場選手資格および選出方法

- (1) 本大会の参加資格は、下記の通りとする。但し監督はこの限りではない。
 - ①昭和59年4月2日以降平成13年4月1日までに出生した者。
 - ②2019年4月30日以前からひきつづき当該都道府県に居住する者。
 - ③各都道府県剣道連盟に登録した個人会員とする。
 - ④地域で活動する青年を参加対象とする。
 - ⑤大学生の参加を2名以内で認めるが、全日本学生剣道連盟に加盟する者は参加できない。
 - ⑥本大会2回までの出場は認める。
- (2) 予選会の実施については各都道府県派遣窓口と協議のうえ決定し、日本青年団協議会並びに全日本剣道連盟に参加申込書を提出すること。また、参加にあたっては、所属都道府県選手団の諸規定を厳守し、その運営に協力するとともに他種目の選手とも友好をはかること。
- (3) 参加者は医師の健康診断を受け、健康であることが証明された者とする。
- (4) 過去において、次にかかげる大会に出場した者は参加できない。
 - (ア) 国際大会ならびに全日本選手権大会
 - (イ) 国民体育大会剣道競技(少年の部の出場は除く)
 - (ウ) 全日本都道府県対抗優勝大会(高校生・大学生時の出場は除く)
 - (エ) 全国教職員大会
 - (オ) 全国警察官大会
- (5) 出場者は、剣道具の垂中央に黒または紺色に白ぬきで県名(横書き)、姓(縦書き)を明記した布製の名札を必ず着けること。

[例]

都道府県名
姓

- (6) 無資格の選手を発見したときは、団体戦はチーム全員、個人戦は当該選手を失格とする。

6. 出場選手の申込み

2019年9月20日(金)までに、参加申込書を全日本剣道連盟に提出し、写しを日本青年団協議会に送付する。

※〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル2階

全日本剣道連盟 (電話) 03-3234-6271 (FAX) 03-3234-6007

※〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1 日本青年館ビル内

日本青年団協議会 (電話) 03-6452-9025 (FAX) 03-6452-9026

7. 試合方法

- (1) 試合は、全日本剣道連盟剣道試合・審判規則と同細則による。

- ア. 団体戦、個人戦ともトーナメント方式により行う。
- イ. 団体戦の試合は、3本勝負とし、試合時間は男子5分、女子3分とする。試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、試合時間を区切らず勝敗の決するまで行う。
ただし、団体戦の勝敗が決定している場合は、以後の延長戦は行わない。
- ウ. 個人戦の試合は、3本勝負とし、試合時間は男子5分、女子3分とする。試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、試合時間を区切らず勝敗の決するまで行う。
- (2) 試合者は胴紐の交差点に主催者側で用意した赤または白の目印を中央から二つ折りにして着けること。
- (3) 試合場に入ることが認められるのは、選手及び監督のみとする。この場合の服装は、剣道着・袴もしくは各都道府県選手団のユニフォームとする。

8. 剣道用具の取り扱いについて

本大会における、剣道用具の取り扱いについては、安全性・公平性の観点から以下の通りとする。

- (1) 選手は、大会で使用する剣道用具について、「剣道用具確認証」を提出すること（「13. 安全管理」参照）。
- (2) 竹刀については次の事項を遵守すること。また大会当日に、計量・検査を必ず受けること。
- 竹刀の長さ（全長・先革長）、重さ、太さ（先革先端対辺直径値及び先端より8cmのちくとう部対角直径値）は、表1、表2、表3及び図の通りとする。
 - ピース（四つ割り竹）の合わせに大きな隙間のあるものや安全性を著しく損なう加工、形状の変更をしたものの使用は認めない。
- (3) 小手については次の事項を遵守すること。
- 小手は、こぶしと前腕（肘から手首の最長部）の1/2以上を保護し、安全性を保つため小手頭部および小手ぶとん部は十分な打突の衝撃緩衝能力がある。
 - 小手ぶとん部のえぐり（クリ）の深さについては小手ぶとん最長部と最短部の長さの差が2.5cm以内である。
- (4) 面については次の事項を遵守すること。
- 面ぶとんは安全性を保つため、肩関節を保護する長さがあり、十分な打突の衝撃緩衝能力がある。
- (5) 剣道着については次の事項を遵守すること。
- 剣道着の袖は、安全性を保つため、肘関節を保護する長さを確保すること。（構えたときに肘関節が隠れること）

表1 竹刀の長さ、重さ、太さ

	長さ (全長)	重さ	太さ	
			先端部最小直径	ちくとう最小直径
男子	120センチメートル以下	510グラム以上	26ミリメートル以上	21ミリメートル以上
女子	120センチメートル以下	440グラム以上	25ミリメートル以上	20ミリメートル以上

表2 二刀の場合の竹刀の長さ、重さ、太さ(男子)

	長さ (全長)	重さ	太さ	
			先端部最小直径	ちくとう最小直径
大刀	114センチメートル以下	440グラム以上	25ミリメートル以上	20ミリメートル以上
小刀	62センチメートル以下	280～300グラム	24ミリメートル以上	19ミリメートル以上

表3 二刀の場合の竹刀の長さ、重さ、太さ(女子)

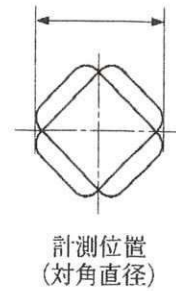
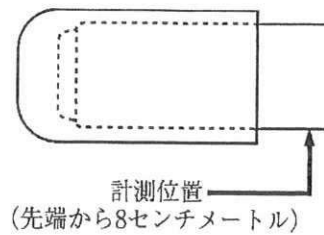
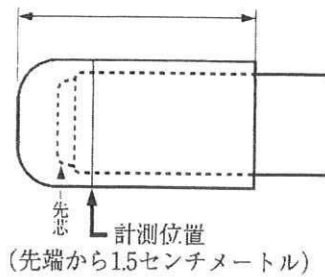
	長さ (全長)	重さ	太さ	
			先端部最小直径	ちくとう最小直径
大刀	114センチメートル以下	400グラム以上	24ミリメートル以上	19ミリメートル以上
小刀	62センチメートル以下	250～280グラム	24ミリメートル以上	19ミリメートル以上

図. 竹刀の先革長、先革先端部最小直径値、ちくとう直径値の計測方法

<竹刀の先革長、先端部最小直径値の計測方法>

<ちくとうの最小直径値の計測方法>

先革の長さ5センチメートル以上



9. 試合運営上留意すべき事項

- (1) サポーターなどの使用は、医療上必要と認める場合に限り、見苦しくなく、かつ相手に危害を加えない範囲において、これを認める。
- (2) 面紐の長さは結び目から約40cm以内とする。

10. 表彰

- (1) 団体戦についてはベスト8、個人戦についてはベスト8まで表彰し、賞状を授与する。但し参加チームが16以下の場合にはベスト4までの表彰とする。
- (2) 個人戦1位に賞状・金メダル、2位に賞状・銀メダル、3位に賞状・銅メダルを授与する。
- (3) 団体戦1位チームに賞状・優勝旗・カップ・メダル、2位及び3位チームに賞状・楯・メダルを授与する。

11. 経費

監督および選手の交通費、宿泊費は各都道府県剣道連盟と各都道府県青年団と協議し決定する。

12. 安全管理

出場選手は、各自十分健康管理に留意し本大会に出場すること。また、出場選手は、健康保険証を持参のこと。

出場チームにおいて、監督は大会での選手の使用用具を事前に確認し、「剣道用具確認証」を、竹刀計量・検査時に提出すること。

主催者において、試合実施中、傷害発生の場合は、医師または看護師により、応急処置を講じ、病院等で治療を受けられるよう手配する。AEDを常備する。

なお、主催者は大会中の出場選手の事故に対し(大会会場への往復途上を含む)、傷害保険に加入する。

13. 個人情報等への取り扱い

※以下を申込者に周知してください。

申込書に記載される個人情報(登録県名、称号・段位、漢字氏名、カナ氏名、年齢、生年月日、住所、電話番号、職業等)は、全日本剣道連盟および日本青年団協議会が実施する本大会運営のために利用する。なお、登録県名、氏名、年齢等の最小限の個人情報は必要の都度、目的に合わせて公表媒体(掲示用紙、ホームページ、剣窓等)に公表することがある。更に、剣道の普及発展のためマスコミ関係者に必要な個人情報を提供することがある。

- (1) 主催者及び報道機関等が撮影した写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがある。
- (2) 主催者及び報道機関等が撮影した映像が、中継・録画放映及びインターネットによる配信で公開されることがある。
- (3) 主催者の許可を受けた者によって、撮影された写真及び映像が販売されることがある。

14. 総合開会式

2019年11月8日(金) 午後3時30分～5時

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1 日本青年館ビル内 日本青年館ホール

15. 監督会議

2019年11月8日(金)

場所と時間は後日通知する。

※選手の変更及びオーダーの変更は、監督会議までに申し出ること。

16. その他

- (1) 原則として基準要項、体育の部要項に定めるところによるが、これらと本要項が異なる場合には本要項が優先される。
- (2) 参加者は、大会本部が指定した旅行業者を通じて航空券や乗車券及び宿舎を申し込む。ただし、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県は関東近郊のためこの限りではない。また、沖縄県は指定旅行業者を通じ航空券と宿舎を併せて手配することができないため、宿舎のみ指定旅行業者により手配する。
- (3) 記載のない内容については主催者で判断する。
- (4) 参加者は、総合開会式(大会前日)に参加し、剣道大会終了後解散とする。



スポーツ振興基金助成事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター

審判主任	試合場主任	検査所責任者

剣道用具確認証

全国青年剣道大会会長 殿

本大会の出場にあたり、(_____ 都・道・府・県チーム選手の) 使用する用具について、「剣道試合・審判規則」および「大会要項」に即し、下記項目の確認いたしました。

日付： _____ 年 _____ 月 _____ 日

_____ 都・道・府・県

監督氏名： _____ 印

記

1) 竹刀関連：検査本数：合計 _____ 本 (大会検査所提出本数)

- 竹刀の長さ(全長)が適正
- 竹刀の重さが適正
- 竹刀の先革先端部の太さ(対辺)が適正
- 先から8cm部分のちくとう部の太さ(対角)が適正
- 先革の長さが適正
- 中結の位置(=全長の約1/4)が適正
- 各ピース(竹)の間の隙間がない
- 破損・ささくれはない
- 不当な付属品を使用していない
- 安全性を著しく損なう加工・形状変更をしていない

2) 小手関連

- こぶしと前腕(肘関節から手首関節の尺骨側(最長部))の1/2以上を保護している
- 小手ぶとん部のえぐり(クリ)の深さは小手ぶとん部最長部と最短部の差が2.5cm以内である
- 小手頭部・小手ぶとん部の十分な衝撃緩衝能力がある

3) 面関連

- 肩関節の保護ができる布団の長さが確保されている
- 面ぶとんの十分な衝撃緩衝能力がある

4) 剣道着関連

- 袖の長さについて、肘関節の保護ができる(構えたときに肘関節が隠れること)

以上